

入野小学校 校長室だより

2014.6.6(金) No.9 文責：芝

他の人の喜び・自分の喜び

先週の水曜日に「入野小学校開かれた学校づくり推進委員会」という会がありました。ちなみに、この「開かれた学校づくり…」という会は、今から15年くらい前に各学校に作ることが推奨された関係で、おそらく同じような組織が全ての学校にあると思います。共通しているのは、様々な立場の人の見方を通して、よりよい学校にしていこうという目的ですが、運営や取組などは各学校で少しずつ違っているようです。(当然ですが…)

今回私も参加した、入野小学校の「開かれた…」でいいなあと思ったのは、委員として参加した児童会役員さんの姿勢です。校外にお願いしている委員さんが、児童会役員さんの発言に対し、

「一生懸命考えて、自分の言葉で言っているのがすばらしい。」

とおっしゃったのですが、私も全く同じように感じましたし、発言内容にも感心しました。児童会役員のやりがいについての質問に対し、こんな答えがありました。

「なかよし朝会を楽しんでいる人がいると嬉しい。」

他の人が楽しんでいる様子を見て、それが嬉しいと感じているのです。児童会の役員さんは、なかよし朝会(左上の写真は、その一コマ)を企画し運営する立場です。だからこそ感じる喜びだと思いますが、「他の人の喜びを自分の喜びにできる」のは、上級生として・リーダーとして磨かれた姿だと思ったことでした。なお、他にも、

「プルタブが集まると嬉しい。」

という言葉もありました。



6年生担任の青屋先生の方角は明確です。

「下級生から憧れられる6年生に…」

成長の過程で行動が自己中心的だったり、考えが他律的だったりする時期があるのは当然です。そこから一步二歩…と成長するためにも、こんな上級生の姿に下級生が気付き、憧れを持って欲しいなあと願っています。大いに期待しましょう。

付け加えて、この児童会役員さんが課題だと思っていることをご紹介します。

「あいさつを、もっとしてほしい。」

前にもご紹介した、毎週火曜日の『あいさつ運動』に関してです。そんな課題こそ「入野小学校の伸びしろ」、成長する喜びが待っています。これも、大いに期待していききたいと思います。

下の写真は保小中高合同避難訓練の様子。子どもたちは、それぞれに一生懸命の姿でしたが、特に保育園児の乗ったカートを押して坂を上る高校生の姿が目に残りました。



